

第28話 文月：「できるくんとやれるちゃん」

本校の教育活動のシンボルとして、2年前から海田小学校公認キャラクターを決定していますが、先日、本校のホームページが目にとまったようで、新聞社からマスコットキャラクター「できる君とやれるちゃん」について取材を受けました。そもそも、このマスコットキャラクターは、自己肯定感を高める取組の象徴として誕生しました。選定については、次のように行っています。

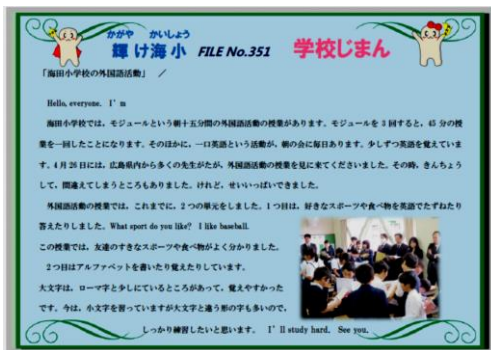


- 1 6年生が卒業を控えた3学期に、卒業の置き土産として、6年生全員がキャラクターを考案する。
- 2 1次審査で、10数点の作品をノミネートする。
- 3 6年生を含む全校児童が、選定の理由を明らかにして投票する。
- 4 上位3点を表彰し、最高得票をマスコットキャラクターとして認定する。
- 5 1年間、さまざまな教育活動で「よいところ見つけのシンボル」として活用する。

平成27年度から、学校行事等で保護者のみなさまのご協力もいただきながら、「自分のよいところ」「友達のよいところ」「学級・学校のよいところ」を見つけて作文に書き、それぞれのよさを認め合う活動を全校で進めてまいりました。この作文は、同じく児童が命名した「海小、輝き発見部屋」に、「輝きファイル」として展示しており、現在では、その数が354枚にも達します。



この「海小、輝き発見部屋」のシンボルがマスコットキャラクターであり、この「できる君とやれるちゃん」には、さまざまなことに挑戦して“自分はいろんなことができるんだ。いろんなことがやれるんだと”という意味が込められています。



こうした取組により、作文を通して、相手のことを思いやる気持ちが素直に書けるようになりました。また、先日の新聞社の取材でも、子どもたちから、「よいところを見つけたら、自分もそのようになりたいと思う」「まねをしたい」「自分もできるようにになりたい」という意見が出されました。

この取材を通して、整理できたことがあります。それは、本校が重点的に取り組んでいる「あいさつ」をすることで相手意識が高まり、「よいところみつけ」を行うことで自分や他者への理解が進み、英語で自分の思いを伝えることで、自分の英語が通じた喜び（自己肯定感）を味わうことができるということです。

「すべてが繋がっているんですね」という記者の方の言葉に思わずにっこりといたしました。



校長 寺岡 成希